

新潟県企業短期経済観測調査の概要

(業況感)

- **業況判断D.I.**は、「悪い」超幅が拡大した。  
—— 製造業は、「悪い」超幅が拡大した。非製造業は、「悪い」超に転化した。

▽主な業種別の変化要因

		業種	主な要因
製造業	改善	電気機械、窯業・土石製品	スマホ関連受注の下げ止まり 工事関連受注の増加
	悪化	食料品、金属製品、鉄鋼、繊維、 紙・パルプ、輸送用機械	内外需要の低迷 原材料価格上昇などによる利幅縮小
非製造業	改善	情報通信	自社サービスへの引き合いの強まり
	悪化	卸売、建設、小売、不動産、 鉱業・採石業・砂利採取業、 宿泊・飲食サービス、運輸・郵便	駆け込み需要の反動 受注の伸び悩み 人手不足に伴う受注制約

- **先行き**については、「悪い」超幅が拡大する見通しである。  
—— 製造業、非製造業ともに「悪い」超幅が拡大する見通し。

(事業計画)

- 2019年度の**売上高**および**経常利益**は、前年を下回る計画である。前回調査対比では、売上高、経常利益ともに下方修正となった。  
—— 経常利益は、製造業で、世界的な自動車関連需要の低迷などから、減益計画となっている。非製造業は、原材料価格や人件費の上昇による利幅縮小などから、減益計画となっている。  
—— 経常利益を前回調査対比で見ると、製造業では、自動車関連需要の低迷などから、下方修正となった。非製造業では、工事受注の増加や消費税率引き上げ前の駆け込み需要などから、上方修正となった。

- 2019年度の**設備投資**は、前年を上回る計画である。前回調査対比では、下方修正となった。
  - 製造業は、中長期的な成長が見込める分野での能増投資や大規模な効率化投資などから、前年を上回る計画である。非製造業は、前年の大型投資の反動や投資計画の縮小などから、前年を下回る計画である。
  - 前回調査対比でみると、製造業、非製造業ともに、投資計画の縮小や先送り、後ずれなどから、下方修正となった。

(その他の判断項目)

- **販売価格判断D. I.**は、「下落」超に転化した。**仕入価格判断D. I.**は、「上昇」超幅が小幅縮小した。
- **雇用人員判断D. I.**は、「不足」超幅が縮小した。
- **資金繰り判断D. I.**は、前回調査並みの「楽である」超となった。**貸出態度判断D. I.**は、「緩い」超幅が小幅拡大した。**借入金利水準判断D. I.**は、前回調査並みの「低下」超となった。

以 上